

令和6年度 第6回 大分大学医学部附属病院 市民公開講座

認知症になっても安心して暮らしていけるために
～認知症看護認定看護師からのメッセージ～

安心して入院生活を送るために



福田 香織

大分大学医学部附属病院 看護部

認知症看護認定看護師

2025年3月22日（土）

自己紹介

大分大学医学部附属病院は、**特定機能病院**です

認知症があっても、**高度な医療を受ける**ことができます

私は総合患者支援センターに所属

入院前から、患者さん、ご家族さんとかかわっています

療養場所が変わっても、
その人らしく、安心して入院生活が
送れるように、一緒に考えます。



入院はその人の人生の一部

誕生

50
歳

80
歳

入院

生まれてからの日々の中で、入院は**ひと時(点)**。
必要な医療を受けたら、再び、住み慣れた地域に帰ります。
いつもの日々が続くように、支援しています。
必要があれば、地域の資源に**繋ぎ**ます。

総合患者支援センターとは・・・

〈入退院を調整する部門〉

安心して入院ができるように、

入院前に病気に対する不安や
困りごと、家での暮らしに関する
お話をお聞きします。



多職種（社会福祉士、心理士、医師、薬剤師、栄養士）と連携

入院前の面談の様子・・・

患者さんやご家族の方へ、
日常から使っている物や安心できる物の
準備をお願いしています。
また、入院生活がイメージできるように
丁寧に説明をしています。

面談室にて



本日の内容

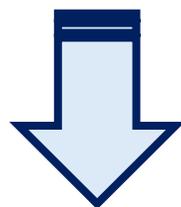
1. 環境について
2. 安心して入院生活を送るための準備
3. 入院後のケア
4. 認知症看護認定看護師からのメッセージ



入院して暮らしの場が変わると・・・

想像してみてください

目が覚めたら、
自分の知らない光景や見知らぬ人に囲まれていた！



自分の記憶をつなぐ手掛かりが何もない
不安な気持ちになりませんか



認知症の人にとっての入院とは・・・

病室

入院当日から**混乱**することがある

その背景に……

- ・ **身体の具合が悪い**
- ・ **環境の変化によるストレス**



- ・ 白を基調とした単調な色合い
- ・ まっすぐ同じように並ぶベッドや病室の扉も一緒の造り

入院における環境の変化

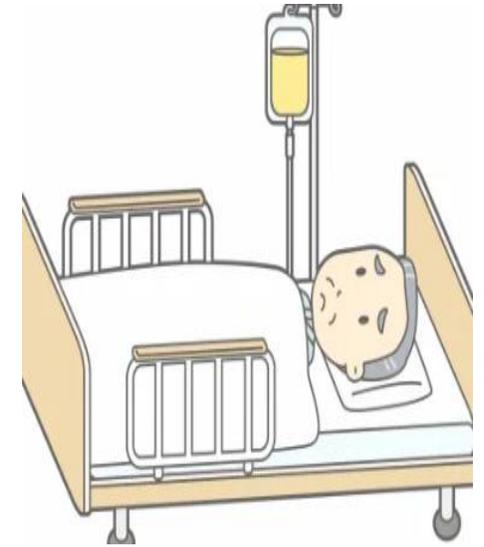
- ✓ 病気の影響で身体の不調があっても、適切な言葉や態度、しぐさで表現することが難しい
- ✓ 見知らぬ場所で、どうしてよいか分からないために、なんとか適応していこう動き回る、触って確認する
- ✓ 治療のための入院ということを忘れてしまうため、苦痛を伴う治療や処置は、恐怖で声や手が出し、危機回避しようとする

そのような認知症の人の姿は、
わからない人、困る人のように、映るかもしれませんが

でも、当然なのでは！



入院による
療養場所の変化



急激な環境の変化により生じる心身の不調は、誰にでも現れる

眠れない、不安になる、落ち着かない、混乱する、気分が沈むなど



認知症の人が、少しでも安心して穏やかに過ごすことができるための**環境作り**が大切

本日の内容

1. 環境について
2. **安心して入院生活を送るための準備**
3. 入院後のケア
4. 認知症看護認定看護師からのメッセージ



入院前に行う説明

少しでも安心して入院生活が送れるように、心配事をお聞きしたり、**使い慣れた生活道具**やご本人が**安心できる物**の持参をお願いしています



入院や手術などの急激な変化により、多くの方が戸惑ったり不安が高まったりします。混乱を最小限にするために私たち看護師は、患者さんができるだけ早く健康を取り戻し、ご本人が望む生活に戻れるよう、思いやりのある看護を提供いたします。



大分大学医学部附属病院看護部

○私たちは、笑顔で、ゆっくり、やさしく対応します。

○入院生活や治療・検査について、わかりやすく説明します。

○食事、トイレ、着替えなどの生活が、入院してもこれまでと変わらず行えるように支援します。

○私たちは、患者さんのふだんの生活を大切にしたいと思っています。そのため、

- ・一日の生活リズム（起床・就寝時間や食事時間など）、趣味・娯楽、ご本人にとって嫌なこと・好きなこと、安心できる物・人など、教えてください。
- ・日常使っている物や安心できる物をご準備ください。たとえば、いつも時間を確認している時計、メガネ、補聴器、カレンダー、くしや鏡、化粧水、髭剃り道具、湯のみ、お薬ボックス、愛用の杖、家族やペットの写真など

○入院中、ご家族も安心して過ごせるよう、心配事や気になる事、ご要望がありましたら、遠慮なくおっしゃってください。私たちからも声をかけさせていただきます。



私たちは、患者さんの**ふだんの生活**を大切にしたいケアを行いたいと思っています。

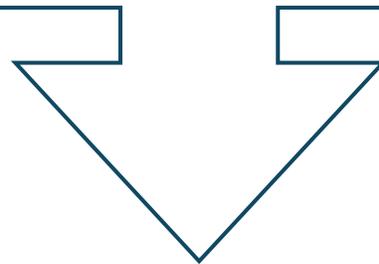
そのため、

- ・一日の生活リズム（起床・就寝時間や食事時間など）、趣味、娯楽、ご本人にとって嫌なこと・好きなこと、安心できる物・人など、**教えてください**。
- ・**日常使っている物や安心できる物**をご準備ください。例えば、いつも時間を確認している時計、メガネ、補聴器、カレンダー、くしや鏡、化粧水、髭剃り道具、湯のみ、お薬ボックス、愛用の杖、家族やペットの写真など

入院前に入院生活における意向の確認

例えば・・・

- ・入院後も自宅で読んでいる新聞を継続購入したい
- ・病衣ではなく、着慣れたトレーナとズボンをはきたい
- ・昭和50年代の歌が好きでいつも聴いている
- ・夕方の時間は相撲番組を欠かさず見ている



入院前に聞いた意向は**病棟スタッフ**と**入院前に共有し**、
患者さんが望む生活スタイルを**継続**できるようにする

本日の内容

1. 環境について
2. 安心して入院生活を送るための準備
- 3. 入院後のケア**
4. 認知症看護認定看護師からのメッセージ



生活史と意向 ⇒ 環境づくりに反映

『いつ、どこで生まれ、どこで、どのように育ち、生活をしてきたのか』

生活史を聴く

『入院中も〇〇を続けたい』

意向を聴く

⋮

常に環境との関係性の中で築き上げてきた生活史ゆえに

環境づくりに不可欠なヒントがある

ベッド周囲の環境づくり①

- ベッド周囲に、日々の暮らしの中でいつも使用している愛着のある物があると、自分の居場所であることの判別が付きやすい。
- 日々の習慣を続けることで、思い出す手助けとなる。

メモ帳と鉛筆が
セットしている



認知症の人が慣れ親しんだ環境とのつながりを感じ、安心感を得ることができる。

ベッド周囲の環境づくり②

カレンダーや時計の設置により、
今日が何月、何日であるか、
何時頃かが確認できる



自宅でいつも使用している
カレンダーに入院日と
手術日を記入。
今日の日付が分かる
ように目印をつけている。

ベッド周囲の環境づくり③

- 自分が大事にしている写真やアルバムがあると癒しの時間がもてる
- その写真や持ち物から対話するきっかけとなる



笑顔で、優しい声で、暖かく触れながらコミュニケーションを取るようにしています。

- 認知症の人にとって心地よい環境をつくる
- 生活史を通して、見えてきた価値観を基盤として、その人にとって最善の環境について共に考え、整えていくことが大切。

事例：Aさん

80歳 女性 アルツハイマー型認知症

今回、手術を受ける目的で入院

入院前の面談 入院中も家でいつも着ている部屋着を着たい

入院中 病衣ではなく、部屋着を着て過ごした

部屋着は喜寿の誕生日で家族にもらった大事なものであった。

持参された写真を見て家族との思い出を語る。

日々の生活の中で大事にしていることや習慣を入院後も可能な限り再現できるように整えることが大事。

看護師としての前に、一人の人間として 他者と話をする、聞き手になること・・・

人生の物語を語る

時間軸で自分のことを振り返り、どう生きてきたか、苦労話や楽しかったこと、嬉しかったこと、今の生活にどのような思いがあるのか、今後どのように生きていきたいかなどを語られる。

話を聞いてもらった

自分のことを話し、他者に分かってもらえた。

人には個別の歴史があり、価値観がある。

これまでの人生や考え方、信条、心の奥深くからの語りを受け止め、
認知症の人の思いを尊重した支援が大事。

認知症ケアチームの紹介



認知症のある患者さんが最善な医療を受け、
安心して療養を送れることを目指しています



本日の内容

1. 環境について
2. 安心して入院生活を送るための準備
3. 入院後のケア
4. **認知症看護認定看護師からのメッセージ**



認知症看護認定看護師からのメッセージ

～療養場所が変わっても

安心した生活が続くための環境作り～